

群 教 セ	F08 - 01
	平 30.269 集
	生徒指導

児童の自己有用感が高まる学級活動

—互いの学級への貢献を称賛し合う

「いいねカード」の活用を通して—

特別研修員 村田 壮教

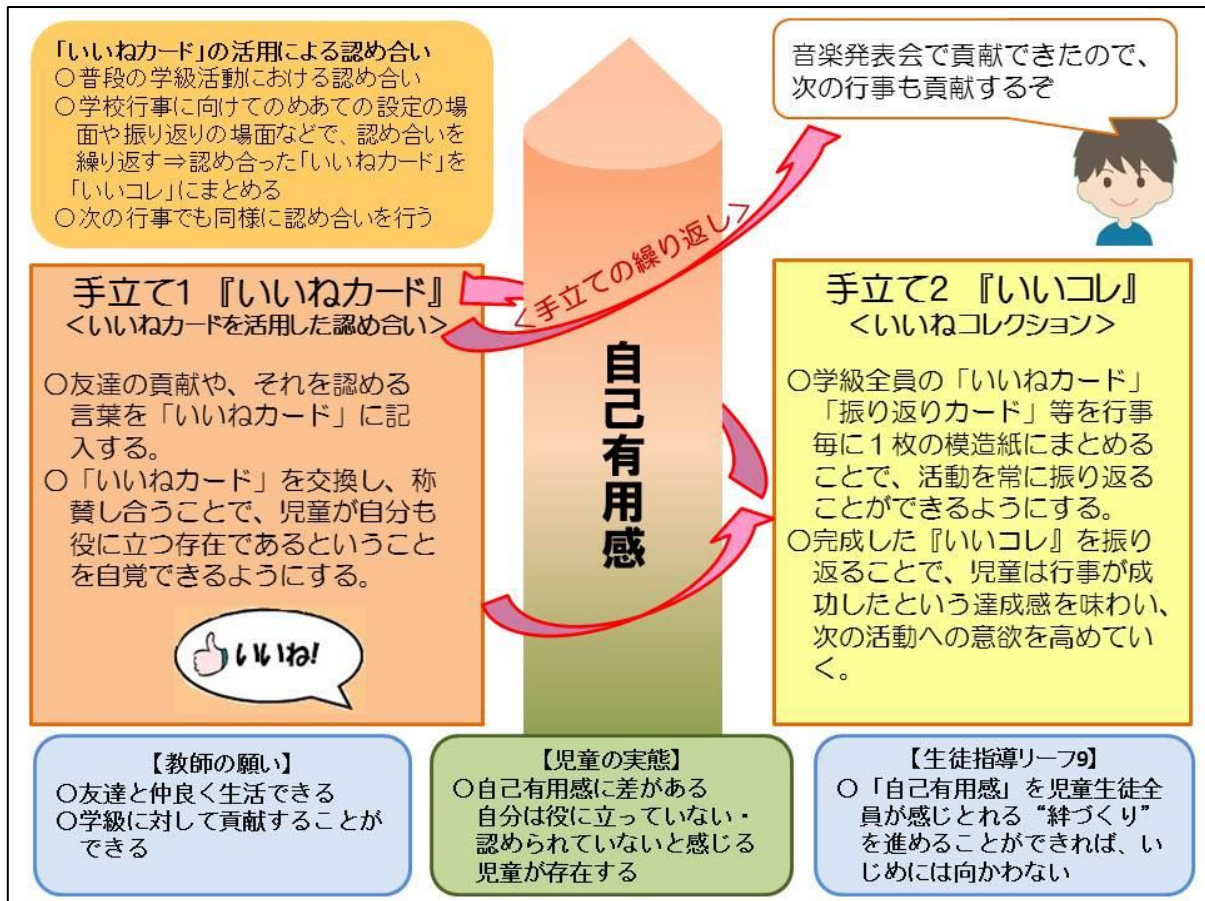
I 研究テーマ設定の理由

生徒指導リーフ Leaf.9 いじめの未然防止Ⅱ（国立教育政策研究所）には、「授業や行事の中で全ての児童生徒が活躍できる場面をつくりだし（“絆づくり”のための場づくり）、彼らの『自己有用感』が高まれば、いじめには向かわない」と示されている。自己有用感を高めていくことはよりよい人間関係を築く上で大切なことであり、いじめなどの問題を未然に防ぐ意味でも、大きな効果が期待できると言える。

本学級の児童に対して、事前に自己有用感尺度質問紙（栃木県総合教育センター）による調査を行ったところ、児童によって自己有用感の高低差が非常に大きくなっていることが分かった。「わたしは、クラスの人の役に立っていると思う」という質問に対して、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した児童が32%と、学級の役に立っていない・貢献できていないと感じている児童が学級の三分の一程度存在していた。そこで、本学級の学級活動等において、学校行事の成功に向けてめあてを設定し、その目標に対する貢献を互いに認め、称賛し合う活動を行うこととした。そのような貢献に対しての認め合いを繰り返すことによって、児童一人一人の自己有用感を高めていくことができると考え、上記のとおりテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

本学級には、「自分は学級の役に立っていない」と感じている児童が学級の三分の一程度存在している。そこで、児童が互いに学級に対して行った貢献を認め、称賛し合うことで、自分も学級に必要な一員であり、学級のために役に立つ存在であると実感できるようにしたい。それを繰り返していくことが、貢献していこうとする意欲の高まりにつながっていくものと考え、以下のような手立てを設定した。

手立て1 「いいねカード」を活用した認め合い

児童が互いの貢献を認め、称賛し合うための具体的な手立てとして、「いいねカード」を設定した。「いいねカード」には、友達が学級に貢献したことやそれを認める言葉を記入する。児童同士で「いいねカード」の内容を相手に伝えながら交換し、互いの貢献を認め、称賛し合うことで、自分も役に立つ存在であるということを自覚できるようにする。

手立て2 「いいコレ」(いいねコレクション)による活動の振り返り

「いいコレ」とは、行事の成功に向けた学級全員の「めあて」や「いいねカード」、行事終了後の「振り返りカード」等を、以下のような手順で1枚の模造紙にまとめた物である。

- ① 行事に向けて設定した個人の「めあて」を貼る。
- ② 認め合いで活用した「いいねカード」を個人の「めあて」の隣に貼る。
- ③ 活動後の「振り返りカード」と、それを認める「いいねカード」を重ねて貼っていく。

「いいコレ」を用いて活動を振り返ることで、児童は自分達の貢献によって行事が成功したという達成感を味わうことができ、児童は次の活動への意欲を高めていくであろうと考える。

以上のような手立てに加えて、学級に対して貢献しようとする意識が更に高まるように、「福の神カード」(友達に対して行った小さな親切を帰りの会でカードによって伝え合う)という活動も毎日行ってきた。これらの活動を継続していくことが、児童の自己有用感を高めていくことにつながるであろう。

III 研究のまとめ

1 成果

- 授業実践後の児童アンケートには、「いいねカード」を活用した学級活動について、「人の役に立っていることが分かった」「自分が貢献できたことがよく分かる」「カードをもらえて嬉しい」などの感想が見られた。
- 自己有用感尺度質問紙による2回目の調査(11月実施)の結果から、児童の自己有用感の学級平均値が1回目の調査(5月)より高まったことが分かった。特に、質問項目「自分がクラスの重要な一員だと思う」が大きく上昇していた(図1)。このことから、学級に貢献するという目標の下で、「いいねカード」による認め合いを繰り返し行ってきたことによって、児童の自己有用感が高まったものと考えられる。

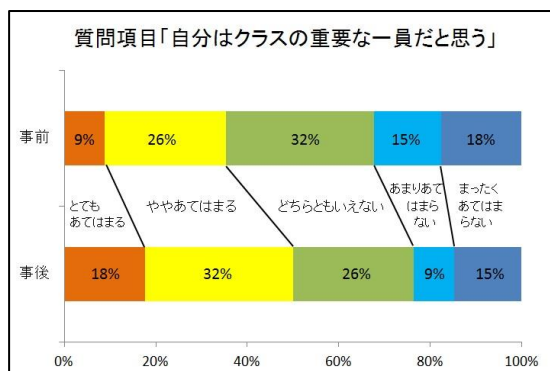


図1 自己有用感に関する質問紙結果

2 課題

- 友達や学級の様子に目を向けることが少ない児童には、「いいねカード」を記入する際、書くことが思いつかず書き始められないという様子が見られた。自他を客観的に振り返る手立てとして、実際の活動場面の写真や映像を提示するなどの工夫をするとともに、認め合いを繰り返し行い、認め合いの経験を重ねていくことが必要である。今後もこれらの手立てを継続していきたい。
- 児童の自己有用感が高まったのは、「いいねカード」を中心として、様々な手立ての一つ一つを継続して行ったことによるものと考えられる。授業実践の参観者からも、「4月と比較して児童が落ち着いて生活できるようになっている」という感想が寄せられた。児童がさらに成長していくためにも、1年間の見通しをもち、計画的、継続的に取組を続けていくことが今後も必要である。

実践例

1 題材名 「音楽発表会を成功させよう」（第4学年・2学期）

2 本題材について

本校の4年生は、毎年太田市小学校音楽発表会に学年全員が参加し、大きな舞台、大観衆の前で合唱を発表している。参加することが楽しみな反面、不安を感じる児童も多く存在する。また、行事に対する心構えが足りず、練習に集中できない様子も見られる。そのような中で、児童が音楽発表会を成功させるという目標に向かって一致団結し、協力して取り組むことは、児童一人一人の成長につながり、よりよい人間関係を形成するために大変価値があると考えられる。

本学級では、「学級の役に立つ」「学級のために頑張る」などを「学級への『貢献』」として、2学期の目標としてきた。そこで、音楽発表会の成功に向けてのめあてを児童が決めるとともに、互いのめあてについての認め合いを行った。また、練習の振り返りを行う中で互いの貢献に対する認め合いを行った。音楽発表会終了後にも、今までの活動の振り返りと、互いの貢献に対する認め合いを行った。このような「学級の役に立っている」、「活躍を認められている」と感じることができるよう認め合い活動を繰り返すことによって、児童は「自分は役に立つ存在である」という自覚を高めていく。児童が認められる喜びを味わい、学級に貢献しようとする意欲が高まっていくことによって、自己有用感も高まっていくものと考え、本題材では次のような指導計画を構想し、設定した。

目標	音楽発表会の成功に向けて、めあてや改善の方法を考えることができる。	
評価 規 準	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	音楽発表会に向けて、進んで練習に取り組もうという意欲を高めている。
	集団の一員としての 思考・判断・実践	学級の一員として、音楽発表会の成功に向けて貢献するとともに、互いの貢献に対し称賛し合うことができる。
	集団活動や生活に ついての知識・理解	音楽発表会に向けて、学級に貢献することの大切さや、その価値について理解している。
過程	主な内容	主な学習活動
事前の 活動	題材を知る	<ul style="list-style-type: none"> 題材を知る。 音楽発表会の成功に向けて学級のスローガンを話し合う。
	2学期を 振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 2学期に自分が学級に貢献してきたことを振り返り、互いの貢献に対して「いいねカード」を用いて認め合う。
本時	意思決定をする 認め合う	<ul style="list-style-type: none"> 音楽発表会の成功に向けて、自己のめあてを決定する。 互いのめあてを認め合い、行事成功への意欲を高める。 めあてを「いいコレ」に貼る。
事後の 活動	実践する 振り返る 認め合う	<ul style="list-style-type: none"> めあてを意識して練習に取り組む。 練習を振り返り、めあて実現のために取り組みたいことを話し合う。 互いの貢献を「いいねカード」を用いて認め合う。 認め合った「いいねカード」を「いいコレ」に貼る。
	(行事)	<ul style="list-style-type: none"> めあてや話し合いを生かして、音楽発表会に取り組む。
	振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 音楽発表会に対して貢献したことを「振り返りカード」に記入する。 振り返りについて、「いいねカード」を用いて認め合う。 「振り返りカード」や認め合った「いいねカード」を「いいコレ」に貼る。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全5時間計画の第3時に当たる。本題材では、児童が「学級の役に立てた」「学級のために頑張ることができた」など、学級に貢献したことに対する認め合いを行い、さらに貢献していこうとする意欲を一段と高めるため、次のような手立てを設定して、活動を行った。

手立て1 「いいねカード」の活用と、めあての認め合い

事前の活動において、児童が2学期における互いの貢献を認め、称賛し合うための具体的な手立てとして、「いいねカード」を活用した認め合いを設定した。そのカードを児童が交換し、互いの貢献を認め、称賛し合うことで、自身が役に立つ存在であると自覚できるようにした。本時においては、音楽発表会に向けての自分のめあてを設定する場面にて、ワークシートに記入しためあてをグループで発表し、口頭による認め合いを行った。事後の活動においても、同様に互いの貢献に対し、「いいねカード」を活用した認め合いを行った。

手立て2 「いいコレ」による行事後の振り返り

音楽発表会の成功に向けた「めあて」や「いいねカード」、終了後の「振り返りカード」等の作製物を次の①～③のように「いいコレ」にまとめていった。

- ① 音楽発表会の成功に向けて設定した個人の「めあて」を、全員分「いいコレ」に貼った。
- ② 互いの貢献についての認め合いで活用した「いいねカード」を貼ることを、音楽発表会の練習中、本番直前の2回行った。
- ③ 音楽発表会終了後の「振り返りカード」と、それを認める「いいねカード」を貼り、「いいコレ」を全員で振り返った。

音楽発表会の成功に向けた互いの貢献に対する称賛の言葉や、自己の振り返りが集まった「いいコレ」を用いて活動を振り返ったことによって、児童に活動を終えた後の達成感を味わわせ、児童の更なる活動への意欲が高まるようにした。

4 授業の実際

(1) 事前の活動

① 題材の確認・スローガンの決定

題材「音楽発表会を成功させよう」を伝え、音楽発表会の成功に向けて自分たちがどのような姿であるべきかを考えた。話し合われた内容をまとめ、音楽発表会に向けたスローガンとした。

② 2学期に貢献したことの振り返り

2学期の今までの生活において、自分が学級に対して貢献したことを振り返り、ワークシートに記入した。記入したことについて、児童同士で互いの貢献を称賛し合う活動を行った(図2)。この活動によって学級に対して貢献してきたという自信を高め、本時でも意欲的に活動に臨めるようにした。

(2) 本時の活動

① 本時の活動の確認

児童に音楽発表会の練習について聞いたところ、児童は「歌詞を間違ふところがある」など、まだ本番に向けて課題を感じているような発言をしていた。そこで、音楽発表会の成功を目指して、個人のめあてを考える活動を行うこととした。

② めあてを考える

めあてを考える場面では、最初に事前に録画した練習動画を視聴した。視聴の際、自分や友達のよい点や課題についてワークシートに記入するように話した。視聴後、記入したことを全体で共有し、板書することで、めあてを書きだせない児童へのヒントとなるようにした。児童は動画やメモ、板書を参考にしながら、めあてを設定することができた。

③ めあてを認め合う(図3)

発表の仕方や聴く側の態度を確認した後、各グループ内で個々

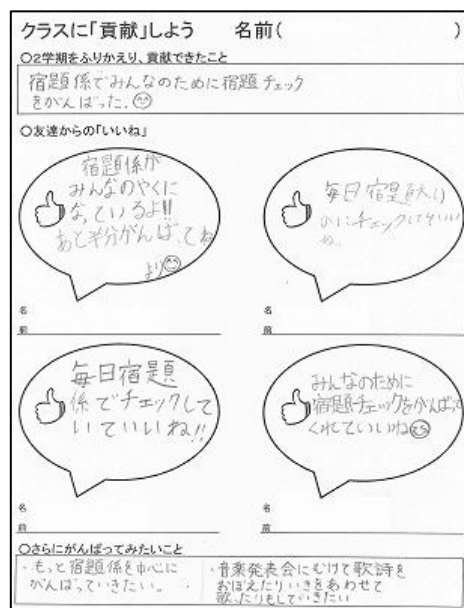


図2 事前の活動ワークシート



図3 めあてを認め合う場面

のめあてを発表した。互いのめあてに対して、拍手を送ったり、「いいね」など声を掛け合ったりするなどして、協力して音楽発表会を成功させようとする気持ちを確認し合う様子が見られた。

④ 振り返り

個々のめあてが書かれたカードを模造紙「いいコレ」に貼った。その際、歌声の大きさや歌う際の表情に関するめあてが中心であったため、練習に臨む姿勢に関するものを意図的に紹介した(図4)。最後に、めあてを生かして練習を頑張ろうという気持ちを込め、全員で合唱曲を歌った。



図4 振り返りの場面

(3) 事後の活動

① 練習の振り返り

本時で設定しためあてを意識した上で発表会の練習に取り組む中で、練習の振り返りを行った。互いの頑張りを振り返り、めあてを達成するために更に取り組みたいことをグループで話し合った。活動後には、話し合ったことや、練習中互いに頑張った様子について、「いいねカード」による認め合いを行った。

② 振り返り

音楽発表会が終了した後、音楽発表会本番の振り返り活動を行った。「振り返りカード」に貢献できたことや感想を書いた後、グループ内で発表し合った。さらに、友達の発表に対するメッセージや、本人が書いたこと以外にも貢献していた様子を「いいねカード」を用いて伝え合った(図5)。最後に「振り返りカード」や「いいねカード」を全て「いいコレ」にまとめ、音楽発表会についての活動を学級全体で振り返り、全員が貢献できたことを確認した。

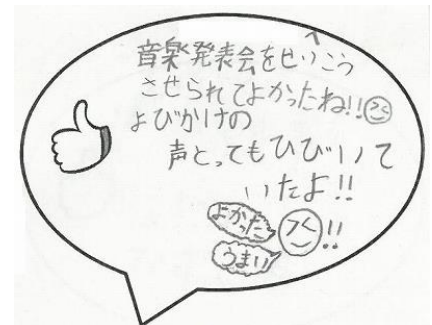


図5 振り返りのいいねカード

5 考察

本時では、めあてを考える場面において、動画による練習の振り返りを行った。参観者からは「自分の姿を客観視できるので有効な手立てであった」という感想が寄せられた。めあてを設定し、認め合うまではスムーズに活動ができた。その一方で、「個々のめあてをより具体化し、自分がどのように活動していくかを考えさせることが必要であった」との感想も見られた。

本番に向けての練習を進める中で、今までの練習に取り組む姿勢について振り返り、さらに取り組むべきことを話し合った。事後のワークシートからは、歌で貢献していこうとする意欲が高まったという内容の記述が多くの児童で見られた。

本学級の児童は、1学期から互いの学級に対する貢献を認め、称賛し合う活動を繰り返し行ってきた。また、事前・事後の活動で行った「いいねカード」を活用した認め合いや、本時で行っためあてに対する認め合いにも、意欲的に取り組む姿が見られた。授業において、いいねカードを配る際には、児童から「いいねカード早くやろうよ」などと発言する姿が見られた。事後

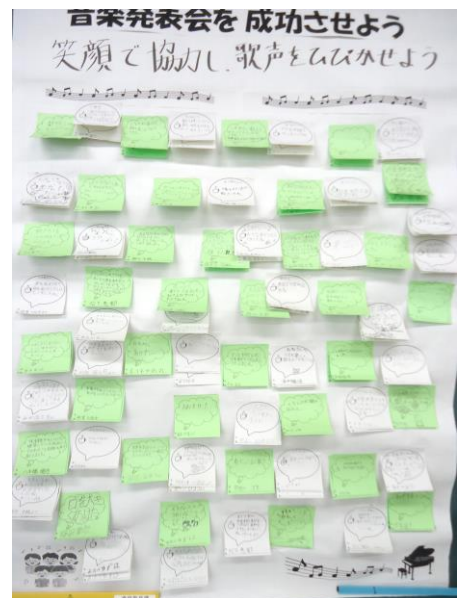


図6 いいコレ(音楽発表会)

の振り返りを行った後、「振り返りカード」や「いいねカード」を「いいコレ」(図6)にまとめ、互いの貢献を確認し合った。事後のアンケートには、「人の役に立っていることが分かった」「自分が貢献できたことがよくわかる」という記述が見られた。このような姿から、児童は互いの貢献を認め合うことの積み重ねによって、自分も役に立つ存在であるという自覚をもち、次の活動への意欲向上につながったものとする。今後も、これらの手立てを継続して積み重ねる必要がある。